

表 令和8年8月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報の発表履歴

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
阿蘇山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第10～11号	7日 16時00分 13日 11時00分	火山性微動の振幅は概ね小さい状態で経過していたが、12日19時頃から増大、中岳西山腹観測点南北動成分の1分間平均振幅は、13日10時時点で4[μm/秒]を超えて推移。 5日の現地調査で、中岳第一火口底に灰白色の湯だまりを確認。湯だまり量は約6割で前回(7月23日)より減少。高さ数m程度の土砂噴出や噴湯を確認。6日の現地調査で火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は、1200[t/日]とやや多い状態。 GNSS連続観測では、2026年5月頃から、草千里を挟む基線及び広域の基線で、草千里付近の深部にあると考えられるマグマだまりへのマグマの蓄積を示唆する伸びが認められる。 火山性微動の振幅が一時的に増大するなど、火山活動に変化が認められており、中岳第一火口から概ね1kmの範囲に影響を及ぼす噴火の可能性はある。
		解説情報(臨時) 第12号	14日 15時00分	12日19時頃から火山性微動の振幅が増大、中岳西山腹観測点南北動成分1分間平均振幅が3[μm/秒]を超え大きな状態で経過。 14日の現地調査で、火山ガス(二酸化硫黄)の放出量が2700[t/日]と2000[t/日]を超えて急増していることを確認。 GNSS連続観測で、2026年5月頃から、草千里を挟む基線及び広域の基線において、草千里付近深部のマグマだまりへのマグマの蓄積を示唆する伸びが認められる。 火山活動がさらに高まる可能性があるため、今後の火山活動に関する情報に注意。
	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、 入山辺規制)	火口周辺警報	14日 15時45分	12日19時頃から火山性微動の振幅が増大、14日15時過ぎから中岳西山腹観測点南北動成分1分間平均振幅が4[μm/秒]を超える。14日の現地調査で、火山ガス(二酸化硫黄)の放出量が2000[t/日]を超えて急増していることを確認。 火山活動にさらなる高まりがみられており、中岳第一火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がある。
		解説情報 第13～20号	14日 16時30分 15日、17日、19日、 21日、24日、28日、 31日 16時00分	12日19時頃から火山性微動の振幅が増大、その後増減を繰り返しながら概ね大きな状態で経過。14日15時過ぎから15日02時過ぎにかけて、中岳西山腹観測点南北動成分1分間平均振幅が4[μm/秒]を超え、大きな状態で推移。15日03時頃からは、4[μm/秒]を下回り、15日15時時点で、2.5[μm/秒]。15日19時には5[μm/秒]を超えたが、その後は概ね4[μm/秒]以下で経過し、17日15時時点では2[μm/秒]程度で推移。18日03時頃に低下し、その後は小さな状態で推移。27日19時頃から一時的に1.5[μm/秒]を超え、やや大きな状態となったが。その後、1[μm/秒]程度で推移。 14日の現地調査では、火山ガス(二酸化硫黄)の放出量が2700[t/日]と2000[t/日]を超えて急増していることを確認。17日、19日、21日の現地調査では、それぞれ1000[t/日]、1200[t/日]、1100[t/日]と減少し、やや多い状態。31日の現地調査では、2300[t/日]と増加し、多い状態。 中岳第一火口では、白色噴煙が最高で火口縁上1100mまで上がる。 GNSS連続観測では、2026年5月頃から、草千里を挟む基線及び広域の基線において、
(次頁へ続く)				

令和8年8月 地震・火山月報（防災編）

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
(前頁の続き) 阿蘇山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、 入山辺規制)			草千里付近の深部にあると考えられるマグマだまりへのマグマの蓄積を示唆する伸びが認められる。 火山活動が高まっており、中岳第一火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がある。
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、 入山規制)	解説情報 第71～80号	3日、7日、10日、 14日、17日、21日 16時00分 24日 10時00分 24日、28日、31日 16時00分	南岳山頂火口で噴火活動継続。2日、8日、13日、25日に爆発。2日23時34分の爆発で、噴煙は火口縁上3000mまで上がり、大きな噴石6合目まで達する。夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。昭和火口では噴火及び火映はない。 火山性地震は少ない状態で経過。14日、25日に火山性微動が発生。また、噴火に伴う火山性微動が時々発生。 4日、27日の現地調査で、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、それぞれ4600、3400[t/日]と非常に多い状態。 島内の傾斜計・伸縮計で、23日18時頃から山体の膨張を示す地殻変動を観測したが、24日夜から収縮に転じ、25日朝までに山体膨張はほぼ解消。26日夜から再度、山体膨張が観測されたが、27日夜に収縮に転じ、28日朝までにほぼ解消。 GNSS観測で、桜島島内の一部の基線で2026年5月頃から山体膨張に伴うとみられるわずかな伸びが認められる。始良カルデラ(鹿児島湾奥部)を挟む基線では、地下深部の膨張を示す長期の緩やかな伸びがみられる。始良カルデラ深部にマグマが蓄積した状態、火山ガスも概ね多いことから、今後も噴火活動が継続すると考えられ、今後の火山情報に注意。
		降灰予報(速報)	1日 23時59分 2日 00時09分 23時58分	噴火発生から1時間以内に予想される、降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
		降灰予報(詳細)	2日 00時12分 00時36分 00時52分 01時25分 3日 00時07分 00時29分 01時17分 12日 01時18分 02時44分 15日 11時20分 12時43分	噴火発生から6時間先まで(1時間ごと)に予想される降灰量分布、降灰開始時刻。
雌阿寒岳	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第39～42号	7日、14日、21日、 28日 16時00分	ボンマチネシリ96-1火口の噴煙活動は、5月頃からやや低下しているものの、活発な状態が継続。 2025年9月からのボンマチネシリ火口方向が緩やかに上がる傾斜変動は、5月9日頃から火口方向が下がりに転化。8月6日から11日頃にかけて火口方向が一時的にわずかに上がる変化が認められたが、概ね火口方向下がりの変動が継続。ボンマチネシリ火口付近の火山性地震は、5月中旬に増加して以降、概ね少なく経過。8月7日から12日頃にかけて一時的に増加したが、その後は次第に減少。 火山活動の活発な状態が継続しており、今後も噴火の可能性はある。

令和8年8月 地震・火山月報（防災編）

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
十勝岳	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第15～18号	7日、14日、21日、 28日 16時00分	62-2 火口では活発な噴煙活動が継続。5日の北海道開発局の協力による上空からの観測で、振子沢噴気孔群からの噴火を確認。6日にも62-2 火口付近で灰白色の噴煙が火口縁上 300mまで上がる噴火を確認。18日の北海道開発局の協力による上空からの観測では地表面の高熱域や活発な噴気の噴出はみられたが、噴火の確認はなし。26日の現地調査で、火山ガス（二酸化硫黄）放出量は1000[t/日]（前回7月24日、2300[t/日]）。62-2 火口及び振子沢噴気孔群付近では、噴煙・噴気高さの増大、発光現象の多発、振子沢噴気孔群の高温化等、熱活動の高まった状態が継続。 3月以降、山体付近やや深部の膨張を示す地殻変動が継続。4月以降火山ガス（二酸化硫黄）放出量の増加、62-2 火口付近及びその周辺の地震活動のやや活発化が認められ、振幅の大きな火山性地震も時折観測。火山活動が高まっており、62-2 火口から概ね 1.5km の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性はある。
岩手山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第33～35号	7日、14日、21日 16時00分	JAXA の「だいち2号」及び「だいち4号」の2023 年 11 月から 2026 年 7 月のデータを用いた国土地理院による干渉 SAR 解析の結果、2025 年 10 月以降、ノイズレベルを超える変動は見られない。大地獄谷付近のごく浅部の膨張は停止していると考えられる。 岩手山周辺の傾斜計やひずみ計、GNSS 観測で、5 月下旬から山体膨張を示すと考えられる地殻変動が認められていたが、7 月中旬頃から停滞。 黒倉山付近の微小な火山性地震は6 月中旬以降発生頻度は低下。5 月下旬からの山体膨張に伴い増加した西岩手山の想定火口や山頂付近を震源とする火山性地震も7 月中旬以降少ない状態で経過しており、火山活動に低下傾向が認められる。
		噴火予報	27日 11時00分	2026 年 7 月中旬以降、山体膨張を示す地殻変動は認められない。地震活動も7 月中旬以降低調な状態が継続、その他の観測データでも火山活動の高まりはみられない。 火山活動は低下しており、西岩手山（大地獄谷・黒倉山から姥倉山）の想定火口から概ね 2 km の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなった。
	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	解説情報 第36号	27日 11時10分	JAXA の衛星「だいち2号」、「だいち4号」のデータを用いた国土地理院の干渉 SAR 解析結果で、2024 年以降、大地獄谷付近ごく浅部の膨張による地殻変動が観測されていたが、2025 年 10 月以降ノイズレベルを超える変動はみられない。傾斜計、ひずみ計、GNSS 連続観測で 2024 年 2 月頃から 2026 年 4 月頃にみられていた山体深部の膨張を示す地殻変動や 2026 年 5 月下旬から 7 月中旬に観測された山体膨張を示す地殻変動は、現在停滞。 2024 年 5 月以降繰り返し観測されていた黒倉山付近や山頂付近の地震活動は 2026 年 7 月中旬以降少ない状態が継続。その他の観測データにも特段の変化は認められない。 西岩手山（大地獄谷・黒倉山から姥倉山）の想定火口から概ね 2 km の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと判断し、27 日 11 時 00 分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2 から 1 に引き下げた。

令和8年8月 地震・火山月報（防災編）

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
霧島山 (新燃岳)	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第32～35号	7日、14日、21日、 28日 16時00分	2025年9月8日以降噴火はない。 監視カメラにより、火口縁上数百mの噴煙を観測。西側斜面割れ目の噴気はなし。 火口直下の火山性地震は少ない状態で経過。火山性微動は6月14日以降なし。 GNSS観測で霧島山を挟む一部の基線で、深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められたが、2025年12月中旬頃から停滞。新燃岳付近の膨張を示すと考えられる基線の伸びは2025年7月以降認められない。 火山活動が高まった状態が継続。引き続き噴火の可能性がある。
薩摩硫黄島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第33～36号	7日、14日、21日、 28日 16時00分	硫黄岳火口では、白色の噴煙と夜間に高感度カメラで火映を観測。火山性地震は少ない状態で経過。火山性微動なし。長期的に熱活動や噴煙活動が高まった状態が継続。火口周辺に影響する噴火の可能性がある。
口永良部島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第18～22号	3日、7日、14日、 21日、28日 16時00分	監視カメラによる観測では、古岳火口で噴煙なし。新岳火口で白色噴煙が最高で火口縁上300m。 古岳火口付近浅部を震源とする火山性地震は、やや多い状態で経過。新岳火口付近浅部を震源とする火山性地震はなし。 19日から20日に実施した現地調査で、噴煙の状況、火口内と周辺の地熱域に特段の変化なし。 東大院理、京大防災研、屋久島町及び気象庁による8月2日の観測で、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、30[t/日]と少ない状態。 GNSS連続観測で、2023年11月以降、山体膨張を示す変動は認められない。 山体浅部でやや活発な地震活動が継続し、火山活動が高まった状態であるため、新岳火口及び古岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がある。
諏訪之瀬島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第32～号	7日、14日、21日、 28日 16時00分	御岳火口で、噴火なし。夜間に高感度カメラで火映を観測。火山性地震は少ない状態で経過。火山性微動なし。GNSS連続観測で、2024年10月以降、島の西側のマグマの蓄積量の増加を示唆する地殻変動が認められていたが、2025年11月頃から停滞。 長期にわたり噴火活動が継続し、御岳火口周辺では、大きな噴石飛散の可能性がある。
恵山	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	解説情報 第1号	6日 13時00分	5日から6日朝にかけて火口原付近を震源とする火山性地震が一時的に増加、前24時間で54回となったが、その後は減少。 火山性微動なし、地殻変動や各火口の噴気状況に特段の変化なし。 前24時間の地震回数が50回を超えたのは2012年3月31日以来。 現時点で火山活動活発化の兆候は認められないが、今後の火山活動の推移に留意。
鶴見岳・ 伽藍岳	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	解説情報 第3号	9日、12日 16時00分	8日22時頃から鶴見岳の山頂の東2km付近の深さ約5kmを震源とする地震が増加。 9日09時までに211回（速報値）発生。9日01時32分頃の地震では、周辺の震度観測点で最大震度2を観測。鶴見岳付近浅部の地震や火山性微動は観測されていない。 地殻変動には、特段の変化なし。 監視カメラによる観測は雲のため不明。 構造的な地震が多く発生する領域であり、今回の地震も同様と考えられるが、火山活動が変化する可能性も考えられる。 地震は9日02時頃をピークに減少、13時以降は低調。鶴見岳の火山活動に活発化の聴講は認められない。 伽藍岳の火山活動には変化なし。

令和 8 年 8 月 地震・火山月報（防災編）

注 1) 表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

注 2) 雌阿寒岳、岩手山、阿蘇山、霧島山(新燃岳)、桜島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島においては、噴火警報を発表している間、毎日 02 時から 3 時間毎に 8 回降灰予報（定時）を発表している。岩手山は、27 日 8 時で終了した。